令和７年度　感染症対応力向上事業（訪問支援）

訪問施設名	社会福祉法人 重症心身障害児施設　ときわ呉
訪問日時	１回目：令和7年10月14日　　15：00～16：30 ２回目：令和7年11月18日　　15：30～16：30
施設対応者	施設長　　岡崎　富男 看護師長　谷口　奈美
感染管理認定看護師	呉医療センター 感染管理認定看護師　松下　あかね
参加者数	１回目：１８人　　２回目：６人





１．施設の紹介

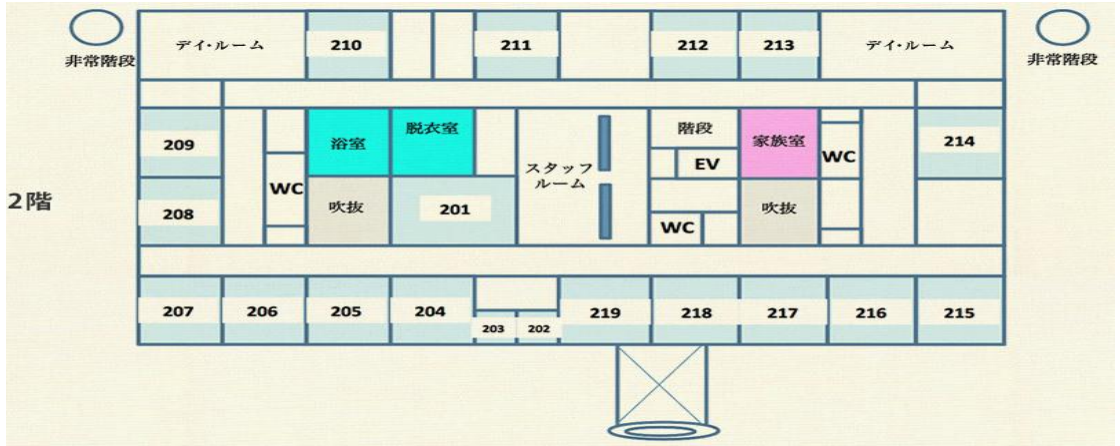
広島県南部で唯一の重心障害児施設として2012年に創設。医療型障害児入所施設と療養介護事業合わせて定員54名。また短期入所事業として定員6名で60床を有し呉湾を見渡すことができる施設です。

【入所施設】２階の１フロアー。

【入所者の利用区分】

・年齢：2歳から72歳で現入所者数は５３名。

・超重症児…10名
・準超重症児…11名
・人工呼吸器装着者4名
・気管切開：17名
・胃ろう：25名
・経鼻栄養：2名
・腸瘻（ポンプ管理）2名
・経口と胃ろう注入併用：3名



２．参加の動機

当施設では、感染対策委員会を中心に手指衛生の重要性や環境整備の徹底、PPEの適切な使用について、ｅラーニング研修や訓練を継続的に実施してきた。しかし、職員全体への理解や実践の浸透にはばらつきがあり、感染対策の重要性が十分に実感されていない現状がある。

そこで、外部の感染管理認定看護師を招き、職員の感染対策に対する意識および知識の向上を図るとともに、より実践的で効果的な取り組みにつなげたいと考えた。

また、当施設は重症心身障害児者施設であり、単一フロアで多くの利用者が生活している構造上、感染症発生時の拡大リスクが高い。そのため、現行の感染対策の妥当性について、ゾーニングや動線、対応手順を含めた実践的な助言を得る必要があると考えた。

さらに、経管栄養の注入物品や医療物品の消毒方法など、日常的に実施している医療的ケアについても、感染対策の観点から専門的な評価と指導を受け、標準化および質の向上につなげることを目的として本訪問支援を依頼した。

３．見えてきた課題

ラウンドを通して、以下の点に問題があることが明確となった。

①手洗い用石鹸および浴室内のシャンプーボトルにおいて、内容物の継ぎ足しが行われている。
②看護師用ラウンドワゴンにおいて、清潔物品が下段に配置されている。
③物品棚の下段にも物品が保管されている。
④手洗いチェッカー等を用いた手指衛生の基礎的な実践評価が実施されていない。
⑤嘔吐物処理セットの定期的な点検・管理が行われていない。
⑥注入後のシリンジ廃棄袋が左側に設置されており、清潔・不潔の区分が不明確である。

４．取組み内容と結果

取組み内容	結果
①詰め替えボトル（ハンドソープ・シャンプー・洗顔料）	現在は手洗い石鹸ボトルを１０個購入。継ぎ足しを禁止し、容器はしっかり洗浄・乾燥することとし、乾燥させる場所を整備した。スタッフにメール・はり紙にて周知する。シャンプー・洗顔料についてはこれから取り組む予定。
②③看護師用ラウンドワゴンや棚の整備	引き出しなどに入っているものを整理し物品を置かないようにラベリングした。
③外部研修について	手洗いチェックについて令和８年６月に研修＋手洗いチェックをする予定を立てた。
⑤吐物セット	手軽に使用できるよう、コンパクトな吐物セットを注文し各部署に配置予定。
⑥シリンジ廃棄袋	注入台の廃棄袋の位置を検討中。（使い勝手を良くするために思案中）

６．具体的な取組み

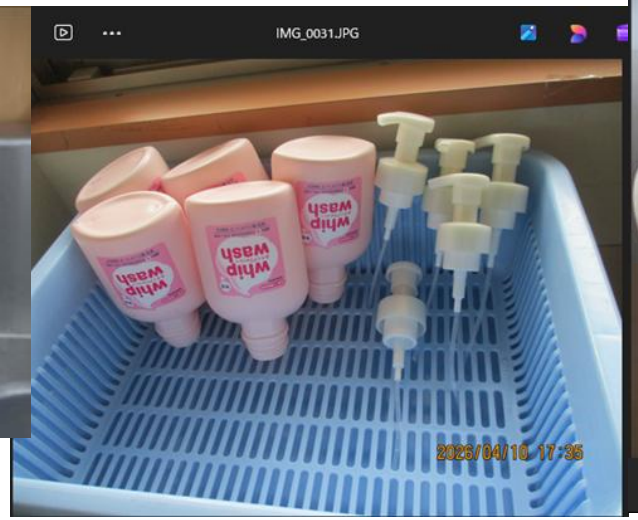
。

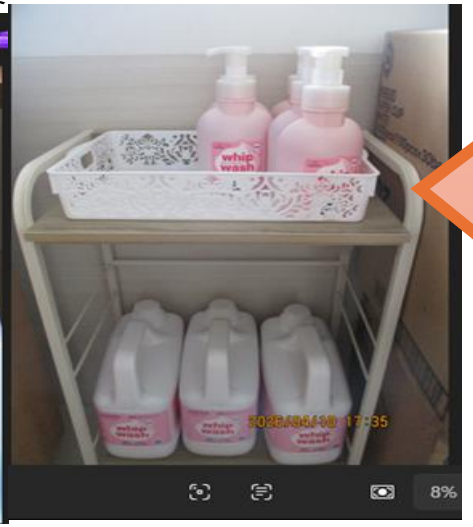
①

取組み前



取組み後





中身がなくなったらしっかり洗浄・乾燥させて継ぎ足しするようにした。場所も確保した。

②

取組み前



取組み後



②

取組み前





取組み後



看護師用ワゴンをきれいに整理整頓した。下段には清潔物品は置かないようラベリングをおこなった。

5．活動の感想

施設からの感想

今回の訪問において、さまざまな質問に対し丁寧な助言をいただいた。また、当施設として外部の感染管理認定看護師による指導を受けることは初めてであり、大変貴重な機会であった。

日頃より感染対策委員会として検討し取り組んではいるものの、重症心身障害児者施設としての対応が適切であるのか、これでよいのかという不安を抱えていた。

今回、専門的な立場から助言をいただいたことで、自施設の取り組みに対する一定の方向性や妥当性を確認することができ、安心感を得るとともに、今後も継続して取り組んでいこうという意欲の向上にもつながった。

また、「わからないことがあればいつでも連絡してください」というお言葉は非常に心強く、今後の感染対策を推進していくうえで大きな支えとなった。

感染管理認定看護師からの感想

本訪問支援事業は、現場の状況を把握した上で、講義やスタッフの皆様との活発な意見交換を通じ、感染対策の基本知識の再確認ができる貴重な機会であった。一律の基準を当てはめるのではなく、現場の背景にある悩みや不安をくみ取り、今できるベターな状態を模索し、一歩ずつ進めるプロセスの大切さを実感でき、自身も多くの学びを得た。

2回訪問させていただいたが、2回目の訪問時にはすでに改善されている課題に前向きな検討がされており、より良い感染対策を目指す熱意が伝わり深く感銘を受けた。

今回の訪問が、皆様の日々の実践や、これからの取り組みをさらに推進していく一助となれば幸いである。

６．まとめと今後の課題

まとめ

今回の訪問を通して、日常的に実施している感染対策の中にも、基本的なルールの定着や物品管理の方法など、見直すべき点が複数あることが明確となった。

また、現場での実践状況と理想的な感染対策との間に差があることも再認識する機会となった。

さらに、専門的な視点から多くの助言や指導をいただいたことで、現場の取り組みを見直す貴重な刺激となり、大変有意義な機会であった。

今回の訪問は、今後の感染対策の改善に向けて非常に参考となるものとなった。

今後の課題

1．スタッフ間で感染管理に関する知識や理解にばらつきがあるため、全職員が共通した知識と意識を持てるよう、継続的な教育および情報共有の方法を工夫する。

2．単発的な指導にとどまらず、「なぜその対策が必要なのか」という目的を含めた意識づけを継続し、感染対策の定着を図る。

3．日常業務の中で感染対策が自然に実践されるよう環境整備および仕組みづくりを行う。